福山市長 枝廣直幹殿

平成29年12月22日
三之丸町内会会長
福山駅前商店会会長
三宅 國裕

福山城及び駅前周辺地域に関する要望書

以下の事柄を要望いたします。

- 1、水野勝成の人柄と功績の啓蒙
- 2、福山城再建と修復基金の設立
- 3、福山城の規模や概要を説明できる地図・標識板の設置
- 4、福山城周辺地域の景観条例の設定
- 5、地域コミュニティーへの参加に対しての住民意識の啓蒙活動への協力

上記5件の事項について、要望理由を以下に説明いたします。

(1) 福山城は徳川家康の従兄弟である水野勝成が2代目将軍・秀忠の命を受け、西国の鎮守として1619年に入封し、250年という長きにわたり戦いのない時代を担ってきたいわば平和・安定の象徴です。

その福山城があと約5年で築城400年を迎えますが、福山市民が福山開祖である水野勝成の人柄や街づくりの功績、そして福山城の素晴らしさをあまり知らないという現状があり、甚だ残念です。そこで学校教育や市民対象に歴史副読本や講演などの啓蒙活動を市の活動に加えていただくことを要望いたします。市民として水野勝成に対する畏敬の念を持ち、お城の素晴らしさを自信を持って語れることが市民の誇りと郷土愛につながると思います。

(2) 福山駅前商店会では、築城400年(2022年)に向けて天守閣の伝統的本格建築での正確な復元を望んでいます。その実現のためにまず、市として10年以内の実現を宣言して目標設定を明確にすることと、市が窓口となって民間より修復基金を募ることを要望いたします。

また、寄付金に対する税の優遇政策措置(民間・企業)の検討もお願いいたします。

天守閣を始め、城郭全体の再建計画を発表することによって、全国より民間・企業からの多大な寄付が期待できると考えます。西側石垣の修復や一部の多聞櫓の修復だけではお金は集まりません。少なくとも 2022 年の築城 400 年までには、城郭正面西側神辺一番櫓と多聞櫓は完成するよう望みます。築城 400 年という大きな節目がイベントだけで終わったのでは寂しい限りです。

(3) 現在、福山城の外堀等の城郭は中心市街地の地下に埋もれ、規模や概要が分かり難くなっています。そこで、それぞれの城郭があった地点にそれを示す地図・標識板の設置を要望いたします。この地図や標識板によって市民や観光で来られた方々が歴史を感じつつ、福山城や中心市街地を回遊できるようになると考えます。

(4) 福山城は平山城（海城）であり、海から眺めた時、西の神辺一番櫓から伏見櫓、筋鉄門、本丸、天守、湯殿、月見櫓と並び、その形容は「西国一の美しさ」と言われていました。しかし、現在は新幹線の高架や近隣の高層マンションの乱立など、景観を阻害する建物が多くなり、さらなる景観上の悪化に憂慮しています。

特に国の史跡である伏見櫓の景観を阻害する建物に対しては、一定の高さ制限をする必要があると思われまます。景観条例の早期制定を要望いたします。

(5) 駅周辺地域は商業地域ですが、近年マンションが乱立し商業活動の妨げとなっています。その結果、周辺地価の低下を招いたり、マンション駐車場への車の出入りにより歩行者との事故が懸念されています。またマンション住民の町内会への不加入など、地域コミュニティーの崩壊へと繋がっています。

マンション業者・住民に対しては一定のルールを決める必要を考えます。地域コミュニティーへの参加に対しての住民意識の啓蒙活動へのご協力を望みます。

以上